

明大昭和会

建設不動産部会報

第 11 号

年頭にあたって

部会長 庄司光克

いよいよ90年代、激動の100年の最終段階に入ってしまった。世界のどの国よりも、また、どの時代よりも多様で激しい変遷を体験して来た日本。昭和が去ったと同時に、過去の忌わしさは日々に記憶からもうすれ、新しい時代に連れじとこれを追いかけ、生き残りの為の競合の世界に浸りこんでしまいそうな予感。殆んどの業界が上昇気流を見し、特に70兆を越す空前の投資に追いまくられている建設業界に居る身であれば、当然のことなのである。

東欧諸国の民主化の動き、そしてこれに無関心ではいられない日本の身近かな国々の動向。日米経済摩擦の問題等々、国外の対応も然る事ながら、新年早々政局もあわただしくなりそうな気配。折角輝やかしい21世紀に入るのだから、種々な抗争は卒業して、地球上の人類が早く仲よくひとつになって、宇宙の別の世界へ拡がって行くことになったら、素晴らしいのにと思つたりする。

先日、九州へ旅して、鹿児島の知覧町へ寄る機会を得た。ここは、終戦間際の最後の特攻隊基地になった所で、立派な資料館が建てられており、そこに17才から25才位の若い隊員の写真と、書き遺したもののが展示されていた。どの顔にも爽やかな若者らしさが漲り、どれをみてもしっかりした立派な墨筆の遺書。残した家族と同胞が、必ずや平穏で幸せな生活が営める様になることを信じて、飛び立った様子が具体的に語り継がれている。

この方々があったればこそ平和で繁栄を続ける日本があるのだと感慨も一入。國を思い家族の幸せを願う純粋な若者の心情。自然に頭が下がり涙してしまった。

長い人間の歴史の中で、次の世代のために、己を投げ打った方々の尊い積重ねの上に、今、我々が生きていられることの事実。

時代が急速に進み、発展する年代を前にして、行く先きだけのことにはやる状況のもと、改めて考え、見つめ直すキッカケを得ることが出来たのは、大きな収穫であった。

知識先行型の教育体制から、これに基因して発生するドライな社会現象を憂い、心豊かな社会を目指す人間のための本当の教育を施すゆとりが持てなければ、幾多の礎になった方々に申証がたたないし、世界の人達からも見離なされてしまう怖れが生ずるのではないだろうか。

年頭に当り、建設不動産部会の益々の隆盛と、部会員の皆様方の御健康と御多幸を心からお祈りして、所感を結びたい。

(2) 平成2年1月

第6回 総会に出席して

及川 司



初めに、平成元年の本会総会が盛況裏に終始しましたことに、部長始め役員諸氏のお力の為せる技と、深く敬意を表する次第です。会の末席を汚す者として、お役に立てませぬ事をお赦し願い部会の一層の発展を祈念致します。

さて、総会後の大塚初重先生（明大文学部長）の講演は、二拾数年振りに大学の講義を受ける様な気持で拝聴しました。「吉野ヶ里」かな「高松塚古墳」かな「藤の木古墳」などの、あのさんせ

んと輝く宝物のお話しかなと、身を乗り出していました處、なんと先生の講演は我等が明治大学の学生を講義に引きつける術を、我等おじん達にも見事に發揮され、今をときめく「卑弥呼」も「邪馬台国」をも無く、現代考古学の裏を表を、お話し下さったのであります。ご講演の内容について述べて見ても、私のつたない文章では先生の意が充分に伝わるどころか、一方通交路を逆方向に進む様なことになってはと思い書く事をためらわれるのですが、先生の幅広い研究活動が、ひしひしと伝って参りましたことは確かでした。新聞等の報道で触れる程度の知識しか無い考古学の事を、なんと興味深く又楽しくユーモアをまじえながらお話し下さった事かと今も思いおこしています。

開発競争で各地（都内も含め）の貴重な遺跡も、あの東京大学の構内すらも、東京都文化財保護委員会の指導がなければどんどん掘り越される等のお話しには、先生の学者としてのやるせ無い憤りが伝って来て、私共の業との対照の妙が、ふと考えさせられてしまいました。出来得る事なら先生のお考えが、御意見が文化の伝承と、未来への警鐘として伝わり、広がって行くことを願わずにはいられません。あらゆる学問が、自然科学发展が社会科学が

古代の、遠い祖先の生きざまをときほぐそうと、
そして未来永劫の子孫に迄伝えようと、今考古学
は正に活き活きとしている様な貴重なお話を本
當にありがとうございました。

先生の愉快なそして為になるお話しのあとビ
ールの味、そしてなごやかな懇親会・校歌と、有
意義な一夕、本当にありがとうございました。



いよいよ最後の「最近の考古学研究から」。ひと人ひとつの人生で、それは想像がきかない複雑な人生を歩む者たちの人生が、その中で何が何を経験するかは、必ずしも予測不可能なことが多い。しかし、明治大学文学部教授 大塚和重（おおつか わたる）は、昭和26年文学部卒業、新制の文学部の第一回の卒業生です。生まれが、1926年大正の最後ですから、もう今年で、63歳です。今日は、明大昭和会建設不動産部会にお招き頂きまして大変光榮に存じております。

表題にございます様に「最近の考古学研究から」という事からさせて頂きます。ご承知の様に、昨年実は、昭和60年から3年間かけて奈良県の斑鳩町の藤の木古墳の発掘調査が行われ、その調査員のメンバーとして係わっておりました。最近は、佐賀県の吉野ヶ里遺跡の事が大変問題になっています。テレビ、新聞また数日前のNHKで3日間通じて吉野ヶ里の事もやりましたので、あまり、この二つの藤野木と吉野ヶ里についてこだわるのはどうかなと思います。また、吉野ヶ里につきましては、つい2～3日前に発表されました新潮社の「新潮45」という雑誌に30枚ばかり400字詰めで『吉野ヶ里の真相』というのを書きましたので、御感心のある方は、それをお読み頂きたい。或いは、藤野木古墳につきましては、つい10日位前に山川出版から藤野木古墳についての単行本が、私人ではございませんけれど出ておりますので、その本にお譲りしたいと思います。

今日、最近の考古学は、随分様がわり致しまして、私が明治大学文学部の考古学を受験する頃は、合格をすると両親が大変落胆を致しました。つまり、穀潰とか家屋敷を無くしてしまうとか、趣味の学問であるとか、物好きのやる学問とか、そういうイメージが強くて、私が文学部の教員になってからでも、全国各地で発掘調査で知り合った高校生等が「大塚先生、僕は明治でどうしても考古学に行きたい。」それで来るのかと思うと商学部に入学していたのですね。それで、挨拶に來るのでどうしたと言うと「商学部に行かなければ月謝は出さない」と親が言う時期の考古学が長い事戦前から随分続きました。

ところが、先だってちょっと4月中旬位の8回ばかり朝日新聞の夕刊に『仕事の周辺』というものを頼まれて、短く連載で書いたのですけれど、何と今年は明治大学の考古学の専攻から5人も証券会社に就職を致しました。日興、山一、大和、和光証券さんとかかつては、考古学の専攻学生が証券会社に就職するなんて事は、考えてみなかったのですけれど、今は、その様な一流証券会社にどんどんいく様な時代です。それで、『考古学と証券マジック』という内容で書かせて頂いたのですが、大変世の中変わって来ております。企業戦略と言う事で、もう商学部、経営学部、政治経済学部経済学科或いは法学部という学部の卒業生だけを取っていると言うのではなく、もう企業として21世紀を目指す企業の企業戦略としてはたちいかない。色々な多方面のニーズに合わせて活動していくとなるとラグビー部出身も野球部出身もテニス部出身のスポーツをやった学生も必要ですし、英文や演劇も必要ですし、勿論経営学部も必要だし、工科も必要です。ですから、世の中どんどん変わっている。しかし、考古学という学問それ自体も大変変わってきております。それで、何処が一番変わったかと言うと、藤野木古墳では、折檻の蓋を開ける前に、ファイバースコープ（胃カメラで使う）の様な最新の工学機器を用いて、5mmの穴を開けて、中にファイ

バースコープを入れて、蓋を開けずに予め折檻の中を予察する。その折檻の中の状況に応じて調査方針を設定するという様な考古学の発掘それ自体に大きな変貌が訪れております。

実は、昭和43年に発掘されて、10年後の昭和53年にはっきりしたのですけれど、埼玉県行田市に稻荷山古墳という120m程の大きな古墳全方後円墳がございます。その古墳から色々な物が出たのですけれど、1本の鉄の鋸びた剣がありました。この頃は、そういう刀や剣の鋸が増殖しない様に色々の合成樹脂を鉄の剣や刀に染み込ませる事が行われております。つまり、真空タンクの中に我々が発掘した鉄の剣や刀を入れまして、熱を加えて、今度は逆に真空状態で鉄の剣の中に、合成樹脂をがんしんさせる。そういう技法によって、現在以上に鋸が進まない様にするという技術が行われて、全国各地で発掘された鉄製品に、同様な事がとられて永久に保存が出来る様な事が行われております。

そして、実際に、この埼玉県の稻荷山古墳のその鉄の剣の鋸を新日鐵の君津製作所の金属研究室の先生方、研究員達が、ほんのわずかな鋸一杯（耳かき位）の鉄の鋸を蛍光X線分析その他の色々な新しい技術で分析をしたところ、その鉄が中国の江南地域、つまり、揚子江の下流地域の鉄を持ってきて作ったという事がわかってきます。それで、今の日本の考古学研究は、考古学本来の方法論の発達もさることながら、自然科学的研究面との学際的な研究協力と言うものが、非常に進歩してきております。

それで、埼玉県の稻荷山古墳は、現在国の史跡になっておりまして、実は、その剣の鋸とりの最中に、奈良のがんおう寺というお寺が経営をしております文化財研究所で、鋸とり作業をしている時に、剣のきらっと金色に一部分が光ったので、更に、剣の鋸とりを進めますと、その一本の剣からの裏と表に115文字の金象眼つまり、鉄の剣にたがねて、細い溝を掘って、その断面のV字型の中に、金の糸や金のまくを金錐をもって中にたたみ込む。そして、上から刷り上げる事で、115文字が剣の裏表に書いてある象眼があることがわかりました。その剣の一番はじめの明文が「しんがいの年」という年号で始まる事がわかりまして、その「わかたける大王」と言う名前、或いは、「おわけの臣」と言う人の名前、その「おわけの臣」の8代の先祖代々の係累が、その剣に書いてある事が読める??????!

その「しんがいの年」は、西暦471年でございますし、「わかたける大王」がしきのみやにいた時は、現在の奈良県の桜井の御殿に「あおぶ」つまり、「雄略天皇」がいた時、埼玉県出身の「おわけの臣」という豪族が、近衛師団と言う天皇の周辺を守る師団の親衛隊の隊長として常番し、彼が埼玉県から奈良まで出張と言うか軍団の一員として出掛けて、雄略天皇の側について守りにつくという名誉ある仕事をやって来て、自分でなく、自分の先祖代々天皇家のお側についてきたと言う象眼の鉄剣が出たわけです。

考古学は、本来ない時代のものをやるのですけれど、時たまそういうものが出てくる。それで、そういう事の意味は、いったい何だろうか。西暦471年という不思議な年と致しますと、西暦5世紀の後半の頃に埼玉県の出身かどうかわかりませんが、あの勢力を張

っていた豪族が、中央の大和朝廷特に「雄略天皇」のお側にお仕えをする事が出来る。それは、西暦5世紀における中央の天皇と関東の豪族達との政治的関係がどういう状態にあったかと言う問題が進んでくるわけです。日本国家は、日本の国はいったいいつ出来上がったかは、日本の古代史考古学から日本の歴史上大問題で、正確に言えばまだ決まっていない事です。つまり、今言った5世紀代に雄略天皇が登場し、中央の天皇が関東の豪族を自分のお側に召し上げている実態から見るならば、大和朝廷の関東支配、東北支配は出来上がっていると考えると、それが、原史的な大和政権の成立だし、日本古代国家の成立だと説く人もおります。ところが、国家と言うものは、税金の問題とか軍隊の組織の問題とか政治行政全体のレベルがきちんと行き通っていなければ国家と言わない。もしそういう議論となればちょっと4世紀から5世紀代日本古代国家の成立は、その原史的な国家形態ではあるけれど、真正銘の古代国家とは言えません。更に、西暦6世紀つまり、今の奈良県斑鳩の藤野木古墳の年代は、西暦6世紀の後半、天皇の名前で言いますと繼体天皇から欽明天皇の時代だと思われます。しかし、日本の古代史の上では、繼体、欽明朝の内乱と言う大問題がございまして、繼体天皇から欽明天皇もう一つは宣化天皇、安閑天皇と同時期に二つの天皇家が並び立ったという懸案もございます。

そういう事で、日本の古代史は、非常に難しいまだ未解決の問題が沢山あるわけです。その中で、新しい考古学が、むしろ、自然科学的な方法を受けついで、応援を得て、非常に斬新な研究が今展開されつつあるわけです。そして、本郷3丁目に東京大学の赤門がございます。ご承知の様に東京大学の敷地と言うのは、加賀百万石前田家の江戸屋敷であります。ところが、大蔵省の予算がつきまして、皆様の建設と係わるのですが、東大の附属病院或いは各学部とも研究室、実験室等の増築が今盛んに行われております。しかし、東京大学のキャンパスの中には、何処を掘っても近世の江戸の加賀百万石の屋敷の跡がございます。東京大学の先生や事務の皆様は、天下の東大は文化財保護法の範囲外であると、もうどんどん建設出来るとお考えだったのですが、東京都教育委員会が建設ストップをかけまして、文化保護法による正規の手続きを経て、事前の発掘調査をしなければ建築まかりならんと言う事で、東大の前総長から私に夜中に電話がありまして、「大塚先生、東大のキャンパスの中を明治で掘ってくれ」と私立大学の明治大学考古学研究室が、東大の中を掘るわけにはいかない。やはり、東大の考古学研究室がございますので、その人達の“飯場”を荒らすことは出来ない」とお断りを致しました。結局、東京大学は大変困って、慶應の卒業生等を誘って発掘調査隊を組織して、調査をやって漸く終わったわけです。しかし、その東大の中でも例えば、赤門を入った理学部2号館の増築工事等においては、事前にそこの土を発掘すると下から昔の長屋の跡が沢山出て参りました。つまり、金沢から来た単身赴任者の下級武士達の長屋跡でございます。その発掘がどんどん進んでいくと、井戸が出てくる。そこに溝が出てくる。その井戸の脇の溝の中に大量の魚の骨が発見されました。昔でしたら、魚の骨が出た位の事で、わかる魚の事は、考古学研究者が、これは鰯かな?これは何だという位で、済ませたのですが、今は、動物考古学と言うジャンルがございまして、魚の専門家にその骨の分析をお願いする。そうすると、何と東京大学の加賀藩の下級武士の単身赴任、これは、絵図や文献が残

(6) 平成2年1月

っておりますから、我々が発掘した後の柱の跡が屋敷全部残っており、100%決める事が出来ます。

その魚の大量の骨は、その単身赴任者の金沢からやってきた加賀藩の武士達が、食べて捨てた井戸の脇でお皿を洗ったりして、溜まった骨が埋蔵されていた。その魚の骨を調べると、勿論、鰯や鰈や鰆の骨もございますが、圧倒的に鰐の骨が多い。ところが、その東大の発掘の頃に慶應義塾大学の考古学部の皆さん方が、東京の麻布飯倉の郵政省の分室の敷地を請け負いましたが、丁度加賀屋敷の下級武士達の単身赴任者長屋とほぼ同じ時期の焼き物が沢山出ますから、これは、米沢の上杉藩の江戸詰めの武士達が、寝起きしていた長屋の跡でした。その跡からも沢山骨が出てくるのですけれど、こちらは、鰐ではないのです。鰯とか鰈とか東京湾の魚に大体限定されている。つまり、同じ時期の江戸屋敷でも加賀藩の単身赴任者の下級武士達は、冬場になると、日本海の鰐を鍋で焼いて、土手い酒を飲んで郷里を忍んで塩漬けの鰐を取り寄せる。米沢の上杉藩は江戸まいの東京湾の魚で我慢する。結局同じ近世の同じ江戸詰めの武士達の食べ物から、考古学研究者が発掘した発掘品の分析から、古文書に出ていない江戸詰めの武士達の食べ物の趣向や好みの実態がいみじくも明らかになっていく。これは、近世の日本歴史の非常に重要な部分を明らかにしていく研究が今行われている。

例えば、東京大学の先生の中には、5,000年前の東京湾を海流する海水の水面下2mの水温は、春夏秋冬どういう温度変化をしたのかと言う事が、周辺の環境に色々な事を与える。その東京湾の市川の堀の内貝塚とか船橋とか千葉例えば中山競馬場のすぐ側のうばやま貝塚とか縄文時代の中期から後期、大貝塚が日本でも一番集まっている所なんです。そういう貝塚を発掘して出てくる土器によって、それが、今から5,000年前の貝塚であるとか3,500年前の貝塚であるとかわかる。この頃は、放射性炭素14やファンショントラックと言う原子核の核分裂を利用して今から何千何百何十何年前と言う年代が割り出せる方法が生かされている。それで、その考古学者が発掘した市川の貝塚の5,000年前の貝をこの頃は只掘るだけではなくて、ある層のある部分を完全にカットして、明治大学へ土ごと運んで来て、毎日毎日細かく振って洗っていくわけです。洗浄すると、貝殻だけでなく、中から昆虫の羽や髪や玉虫や天道虫の羽根が貝のカルシウム分の関係で、非常によく残っておりまして、その貝殻が採られて捨てられたのは、春から夏のシーズンと言う事まで今は、はっきり言えます。

それで、東京国立博物館におられた小池ユウコさんと言う40前後の若い女性の研究者は、蛤やあさりばかり研究している。その先生は、東京湾の貝塚から、我々が発掘していく大量の蛤を最新の科学博物館の中で、丹念に分析をしています。すると、蛤の成長曲線が、樹木の年輪と同様に春から夏は貝殻がどんどん成長して大きくなっている。成長曲線の幅が非常に間隔が広い。秋から冬になると間隔が狭い。そうすると、いったい何時この貝を採ったのかと言うと皆春なのです。4月5月6月7月位、つまり今日富津や木更津で潮干狩に我々が家族連れで行くと、春の大潮で東京湾がずっと遠浅になりますが、縄文時代の人達も貝を採ったわけです。従いまして、その貝殻の研究から春の大潮の頃、つまり現代の日本人が潮干狩をする時に、縄文の人達は、村をあげて採っている。この研究から縄文

時代の村の生活がわかる。そして、貝の蘇生から入っていくと、中から骨が沢山出てくる。鮪が出てくる。鯨の背骨が出てくる。ところが、鯨の骨は、一頭分纏まって一つの貝塚から出てきた試しがない。市川の貝塚、中山競馬場の貝塚、縦武沿線の同じ時期の貝塚からバラバラに出てくるわけです。従って、東京湾に捕鯨があったかどうか問題ですけれど、ともかく、打ち上げられた鯨を縄文人は、解体して、集団毎にそれを分けている事が、骨の出方から逆に復元出来る。更に、出てくる魚の骨や鱗によって、その時期の東京湾の回遊魚という事がある程度わかる。そうすると、3,500年前の縄文時代のある時期の東京湾の鰯や鯖が泳いでいた時の海水の温度の程度が計算出来る。それが、逆に自然環境の復元にも役立つ様に、かつての日本の考古学世界が考えていた様な考古学とは大分様がわりしております。考古学を研究すると家や屋敷や財産を無くすというのは、昔の考古学でありまして、儲かりはしませんが、何とか生きていける。研究三昧に浸っていられる。

よくお話しするが、先年亡くなった国際キリスト教大学の若い女性の研究者ですが、糞石、要するに“うんち”が、5,000年前、6,000年前のものが、色々の地層の条件で埋蔵されていて、そっくり残っている遺跡が段々増えています。大発掘が行われています。最近では、福井県の三方郡三方町とりはまという縄文前期の貝塚（6,000年前の遺跡）では、そこから、大小3,000個の我々の先祖の排泄物がころころと残っております。それを発掘して、硫酸ナトリウムの様な液をかけると排泄当時の色に近い状況になるわけです。それで、その先生は、来る日も来る日も全国の縄文遺跡から出る糞石の分析で、犬等の動物は、胃のこなれ、咀嚼が良いのですが、人間の胃は犬に比べて良くない。だから、人間が食べた鳥の肉等には、まだ羽根や鳥の骨が、未消化で排泄される。蛋白質、脂肪分その他何を食べていたか、どの位のカロリーを探っていたか“うんち”から逆算出来る。つまり、縄文人の食べ物が復元出来る。そういう面からも食べ物の事まで非常にはっきりわかる様になってきました。

もう一つは、脂肪酸分析（これは生化学の分野）これは、動物、人間、馬、牛、その他があらゆる動物、マンモス等の動物が持っている脂肪酸の組織の様なものは、動物の種類によって全部異なる。ですから、人間は人間の特定の脂肪酸を持っている事が明らかになっています。実は、数年前に宮城県古川市で発掘された約13万～14万年前の旧石器を人間が触らない様にして、回りの土をくっつけたまま、ビニールにくるんで、北海道帯広畜産大学の生化学の中野ますお先生の研究室に送って、その石器の表面に付着している脂肪酸の分析をして頂いたらば、13点の石器の大半からナウマン象の脂肪酸と日本鹿の脂肪酸が出てきて、その石器で何を獲物にしていたかを具体的に言える様になりました。

これも3年前ですけれど、山形県の高畠町（米沢の近く）で押し出し遺跡という6,000年前の縄文の遺跡が発掘されました。中から一固まりの炭化した炭の様なものになった固体物が発掘されました。この炭化物、炭の様な物となった物質、これも帯広畜産大学の中野先生の分析により2年前にわかった事実ですが、その脂肪酸分析の結果、中味がわかりまして、何と栗が70%、胡桃20%、あとの10%は松の実、それから肉は、鹿、猪かわかりませんが、肉が入っていて塩が入っている事がわかりました。それで、帯広のお菓子屋さんが、それを聞きまして、自分で実際作ったらこれが、なかなか栄養価

が高くていい。つまり、縄文の6,000年前の縄文時代、流浪の旅をしていたと考えがちであった縄文人の生活が、少なくとも、気候が暖かい縄文の前期、今から5,000～6,000年前の縄文人の割合に栄養の高い物を食べていた事で、我々の縄文人観と言うもの、縄文の村の景観等の考え方を全く根底から考え直させる様な状況が今出てきています。

まだまだ最近のそういう考古学の新しい事実が沢山ございます。ごく最近軽石が2m堆積しております。この軽石は、建築ブロックを作ったり、テニスコートの下の地盤にやったりしていますが、原材料に使う事で高く売れるわけです。この軽石を1反歩何十万円で厚さ2mの軽石を買うのです。全く軽石が無くなってしまっても、また、新しい畑にして、地主さんに返す。と言う開発が続いております。ところで、その軽石を採ってみると、下から何と6世紀半ばから後半に至る村落が、日本の根底の様にそっくり出ているわけです。こんな遺跡は、日本では初めてです。ちょっとオーバーな表現をすれば、直径80cmの生け垣が残っております。その生け垣の入口までわかれます。中に屋敷があって、母屋があって、納屋があって、作業小屋があって、牛小屋があって、馬小屋もある。牛小屋と馬小屋は、全部地面が舟形に掘られておりまして、底の土を脂肪分析をすると、牛や馬のおしっこや排泄物の脂肪酸が検出されましてこの長方形の平地住居は、馬小屋だった事が今わかります。

そういう事で家の窓まで残っています。それは、わずか数時間でマグマが爆発して、細かい軽石が降ってくる。そういう状況のなかで、建っていた家がだんだん潰れていって、屋根が落ち込む。そこに、倒れる。その窓は、中から棒で外にあける明かり窓風の窓がそっくり残っている事が大変な事実が今わかりつつあるわけです。その発掘技術もよくわかったし、そして、自然科学的な研究成果を取り入れて、予め発掘する前にボーリングをして、この地上面から1m50下これにプラントオパールの研究で、かつて、稻を作っていた水田面等の植物は、植物珪酸体と言って、根っここの所から珪酸質の物質を残しております。それは、永久に残る。だから、田圃に捨てられた稻が、立ち枯れていくとある所に植物珪酸体が残るわけです。その土壤を採って植物珪酸体を検出する事をプラントオパール法と言います。その土壤学の研究の成果が、考古学に今応用されて、発掘する前に、3枚位水田があると予めわかれますから、発掘する前にもうそろそろ水田が出てくるぞとスコップを止めて、竹べらや簞に変えるとちゃんと畦道が出てくる。棟まで出てくる。そこにぼこぼこ足跡が出てくる。その足跡が3列でUターンをしている。また、Uターンをする。すると、その足跡の方向は、3人が横に並んでいる。また、この足跡の専門家がいます。NHKの放送大学にいる平沢先生が、古代から現代人の足跡ばかりやっている。一生足跡という事です。現代の扁平足の研究から始まって、古代人の足跡を見れば、これは、女性60歳代、これは、13～15、16の男とわかるわけです。しかも、重心が前屈みという事がわかりますので、前傾姿勢で3人が並んでいると、60、45、25、おじいさんと母親と娘が孫が田圃で働く3人がという年令構成か、どういう性別構成、これは、何をしているのか、雑草を探っているのか、田植えをしているのか、今度は、農業土木や農学の先生方の助けを借りて、そういう事の研究を今しています。その平沢先生の話によりますと、縄文自体の足跡をみるとやや前傾姿勢である。つまり、絶えず、前

を身構えている。動物が出て来ても、猪が出て来ても、敵が出て来てもさっさと身構えられるようにやや前傾姿勢である。奈良から平安になって来ると、だいたい立ってくる。

実は、1954年、昭和20年以降、戦後の今の若い人、中学生、高校生、大学生位の若い年齢層の足跡と言うのは、重心が踵の方にどんどん移っている。もう奈良、平安から見ると、相当移っている。今や重心からいって斜め上に反っている。このまま戦後、非常に激しく状態が上がってきた事で、このまま30年経つと日本人は完全に引っ繰り返るのではないか。懐も良くなつた。食べ物もたっぷりである。欲しいものはお金さえ出せば何でも買える。新しい情報社会で、何でも情報が入ってくる。そういう新しい情報社会の中で、今の若い人達が何を考え、何を目指しているのかという事で、足跡博士の平沢先生は警告を出しています。このままだと日本民族は、後ろに引っ繰り返るぞということです。これは、やっぱり教育者としても、日本の社会全体としても、こういう事は考えなければならないだろうという事、或いは、農学の先生方でみると今から100年から70～80年前でしょうか。大英帝国、7つの海を支配するイギリス人は、世界で一番海老を食べていて。ロブスターとか、伊勢海老とかです。戦争で日本が負け、アメリカ連合軍が勝利し、特に、1945年以降のアメリカ社会は、大変な戦後の景気で、一つの戦争に勝った事は、経済的繁栄という事で、アメリカ合衆国は大変自身を持った時です。そのドル高の時のアメリカは、ロブスター、伊勢海老をばんばん食べた。世界で一番アメリカが海老を輸入した。ところが、今や日本が、世界で一番海老を輸入し、一番食べている。つまり、伊勢海老を沢山食らいつく民族は、だいたい終わり短しという話もあるのです。

従って、よくわかりませんけれど、これだけの情報社会で、私は、古い時代の考古学を研究していますけれど、古代のエジプトを見ましても、古代のメソポタミヤを見ても、或いは、南米のインカやメキシコ地域、古代文明の中国やそこ10ヶ月間の中国を見ても、とにかく過去の栄光や文明は未来永劫絶対に続くものではない。過去の栄光は今日の考古学の研究を通じて本当にひしひしと感じてきます。だから、現代の日本に生きる我々、これから色々の事で日本を担う若い人達は、何を考え、どうしていくのかと言う時に、歴史や過去の文化財を大事にする国は、私は、未来永劫に栄光があると思います。

昭和会建設不動産部会関係で、文化財迷或論、どこかで何かをしようとすると、文化財がある。ストップがかかって困ったものだという話があるかもしれません、以上の事も思い出して、是非文化財にも過分にご高配を頂きたいと言うのが、本日の私の話でございます。ご静聴ありがとうございました。



竹内先生の講演を聞いて

株鈴木不動産 秋元道別(41・法)

今年は日本の総理が約9ヶ月で3人も変わったという、政界にとっても激変の年でした。マスコミの最先端で活躍されている竹内先生には、いつも時局に即した、貴重なお話を伺えてとても勉強になります。私も日頃から新聞に目を通し、テレビのニュース解説を聞いて情報の整理に努力している積りですが、日本の政治が何をめざしているかさっぱりわからないのが現状です。自民党が消費税問題で大敗を喫した先の参議院選挙の結果、今後6年間は片方の議会で与野党が逆転するという異状情態が続くわけですが、現在、又国会では消費税廃止、見直しと大もめにもめております。竹内先生は混乱状態にある国政を、我々にも非常にわかりやすく解説いただき、又新聞紙上等では、知り得ない秘話、国会の裏話などもお聞かせ頂きますので、お客様との話題作りにも大役だっています。

今後も機会ある毎に講演をお願いいたします。

平成1年6月19日 大学会館に於て

納涼パーティーに参加して

住建道路営業部 粟野勉(54・政経)

建設不動産部会の真夏の夜の恒例納涼パーティーは8月4日新宿住友三角ビル49F『ギャルソンパブ』で怪しげな雰囲気のもとにかつ盛大に開催されました。

私も今まで数多くのパーティーに参加をしてまいりましたが、この納涼パーティーほど怪しげで、楽しく、愉快なものはありませんでした。

よくこういったお店を搜してきたものだと感心をしましたし、そしてあの庄司部会長がよくOKしたと、やはり相当遊びなれているか、はたまた心の拡いお方とあらためて感心をいたした次第です。

皆さんお店に入りますと男がいるんですね。そしてその男達がめいっぱいお化粧をしていて、女性なんですよ。そして男、女達が軽々しくウイスキーやおつまみを運んでくるんですね。一瞬ドキッとしてしまって。

住友三角ビルの47Fには『東京住友クラブ』というものがあり、住友連携900社の社員はいつもフリーに食事をしたり、お酒を飲んだり、パーティー等も開催することができ私もよく利用しております。

ネオン夜景、下界を見ながらの食事は最高んですよ。そして、あの47F『東京住友クラブ』の2階にあのような怪しげなお店があることはそれまで知りませんでした。

食事の後はパフォーマンスのショーがあるんですね。これがまたおもしろい。その時々のニュース性のあるものをショーの中におこなっており、笑えるんですよ。とても愉快なんですね。お客様をショーの中に巻き込んでしまい、出演者とお客様が一体になってしまいます。

別にお店から宣伝料は一切いただいておりませんが、納涼パーティーの後2回もお店に行ってしました。

さすが建設不動産部会、このような企画を考えていただいた遊びなれた役員の方々には御礼申し上げます。

次回も楽しく愉快な集まりを期待しております。（平成1年8月4日 ギャルソンパブに於て）

本日は娘が帰り、娘や妹達の夫や夫の友達も来ます。来る方の名前を書きます。
アメリカ雑感
 (株)三橋庭園設計事務所 三 橋 一 夫(39・商)

「アメリカ行きを計画して下さいよ」という一言が半年後に具体的になって、2週間も仕事を放り出して出掛けた大丈夫かな、という不安が先に立ちました。

友人は且て2年半の間、オレゴン州ポートランドで市立の日本庭園の管理責任者として暮らしてきた経験があり、友人も多いので近々行きたいと言うのを聞いて頼んだのがそもそももの始まりです。計画は一切委せるからという事で頼みました。どこへ行くかは同じ庭を造る仕事をしている者ですから途方もない所へは行かないでしょうし、人の計画したプランにチョンと乗ってゆくのも一興と思ったのです。しばらくして届いたプランにはポートランド4日、ニューオリンズ2日、アトランタ1日、ニューヨーク4日、ポートランド3日、という2週間の計画でした。基本的には庭、都市計画、ウォータ・フロント計画の見学、残りは観光という主旨になってました。

留守中仕事の調整は2ヶ月前から始め社員が私の留守でも不明の点が無いようにして、ともかく「エイッ」とばかり何もかも振り切って飛行機に乗ってしまいました。ポートランドは友人の第二の故郷と言うように10月の末もう紅葉が街中にあふれ始めていました。今振り返ってみるとあの街の素晴らしいところは云えるのですが、緑にあふれ街全体がシットリとした感じがします。

公園の一部に「日本庭園」があり、彼の後任の日本人がアメリカ人を使って管理をしてます。広さは7千坪位で、市と市民の寄附によって運営されています。彼らは大変この庭を誇りとっています。

25年前に遠野教授という庭園学の権威が計画、造った庭を日本人の造園家が交替で管理、拡張して現在に至っています。アメリカ人は既して精神的な物を好むようです。庭の持つ意味に非常に抽象的な言葉を変えて言えば禅的な解釈

をする事に納得するようです。これはアメリカ人の造園家も今は一般家庭に日本風の庭園を造る風潮があり、その助手の女性でさえもハートに警く庭仕事であると言っていたのもしかすると本当の「わび・さび」も彼ら外人の方が正しく理解している点があるかも知れません。ニューオリンズへ飛ぶ機内からテキサスを見下しました。農場がまるでオセロゲームのように見え、その自然の造型に「なる程でかい国だな」と実感致しました。

ニューオリンズは、アメリカの箱根的で観光客の多いところです。ミシシッピーのはとりの建築物、本場もののジャズ、カキ、など我々もおのぼりさんとなって楽しみました。

「アトランタ」これがすごい。こここの飛行場の機能的なこと。帰ってきて成田を見たらその行き当りバッタリな感じが一層目立ちました。何せ、飛行場内の通路の壁がサット開くと、地下道になっていて荷物の受取り場まで一直線です。街も良く計画されていて、何気なく再開発された感じがショッピングやレストラン、公園などを構成して色調も考えているなという印象を受けました。アメリカ人は、ダークグリーンとうすいピンクが好きですね。公共の場では一番目立ちました。恐ろしいと言われているニューヨーク、街中の人が何かを恐れているように足早やに歩いています。世界中から観光客が来るというのに皆が誘われたように同じ調子で歩いています。夜は確かに氣味が悪いし、友人は「危ない」のを察知するのが早くヒョイヒョイと曲って歩く。これもアメリカでの生活体験の故か感心したものです。セントラルパークは実際に見てみると自然の岩盤が露出して公園内は岩だらけです。これでマンハッタンは岩盤の上にあり地震がないのでビルも倒れないという意味が分ります。本当に日本では信じられないような構造のビルが建っていますからビックリです。

2週間の旅でしたが個人的に回ったのでかなり自由に建築とその内部の公共スペースの緑のあり方、アメリカでの造園家の活動の様子、今はやりのウォーター・フロント計画、いずれもあっさりスッキリうるさくなくまとめられていて感じが良かった。アメリカ人の質素さ、堅実さ、田舎町には我々がもう忘れていたような人情があります。地球は一つということが実感として理解できた旅でした。全てを書くには紙数が足りません。いづれ機会があれば改めて書きたいと思います。

忘年会に出席して

飛栄産業㈱ 常務取締役 鎌田 智(34・法)

12月2日(土)有楽町ニュートーキョーにて建設不動産部会の忘年会が開催され、初めて出席しました。

庄司部会長はじめ鈴木事務局長さんらが今日の部会としてまとめてこられたそのお人柄がにじみでて、和やかの内に忘年会を楽しく過させていただきました。

柳沢さんの上手な進行により会は和らぎ、ご家族の会員や新入会員の紹介やら、久しぶりの出席者の話しかけやらで、私は久しぶりに母校明治大学に在学していた頃のことが、懐かしく思い出されました。

多くの校友を知り、そのご活躍ぶりに感動し、あっという間の閉会でした。

この「明大昭和会建設不動産部会」が今後益々校友から校友へと輪を広げて、これから百年の明治大学の発表に寄与することを希望してやみません。

私は飛嶋 奏社長(明大商卒)のお蔭で、飛栄産業株式会社(本社 千代田区神田神保町)に勤務しております。

近年会社の業績は急上昇して、不動産業界において、全国ベストテン内に位置づけることができました。

明大OBが多く活躍しており、その内役員は6名の活躍です。

全国に札幌から九州まで十余個所の支社を置き、全国のみなさんに信頼される企業として発展しつつあります。



日立化成㈱ 増田 雄太郎(43・政経)

今年の忘年懇親会は、12月2日(土)当部会客員佐々木英夫氏(42・政経)が店長をされているニュートーキョー スキヤ橋店「桃杏樓」にて52名出席で開催されました。

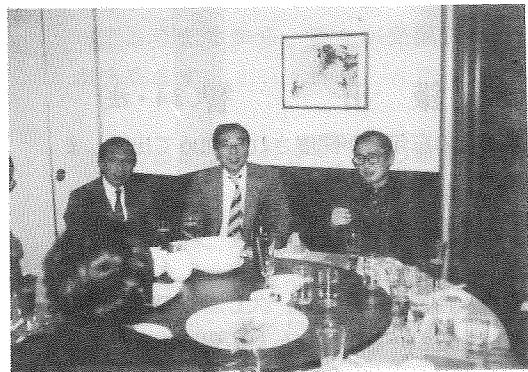
中村幸安先生の講演に引き続き、和やかなうちに庄司部会長の挨拶で始まり、昭和会本部小林栄一代表幹事のご祝辞、橋口美文氏(28・商)の音頭で乾盃、部会役員の紹介、新入会員の挨拶と進みました。新入会員では、武捨真由理さん(63・文)の紅一点、初々しい挨拶が印象的でした。

さらに今回は同伴出席の奥様達の紹介があり、5人の方々が挨拶され、華やいだ雰囲気となりました。

庄司部会長奥様からは夫人同伴参加の呼び掛けがあり、男性会員は課題を戴きました。(女房を口説かねばならない?)

後は、柳沢克行氏(53・政経)のユーモアたっぷりの司会で進行。





各位それぞれ所感を述べましたが、目的を同じくする本会への期待感が籠められた愉快な話が続き、賑やかにヤジも飛び交いました。終わりは恒例の校歌、応援団O Bの永沼明彦氏(41・農)の音頭により肩組み合っての齊唱。一同翌日(12月3日)の明早ラグビー戦の勝利を期しました。

以上楽しい会を開催戴きました幹事の方々へ感謝申し上げますとともに、来年はより多数(夫人同伴も)の会員諸兄諸姉の御出席を期待しております。

会員探訪



内田 喜代司 株式会社トヨーハウジング 代表取締役社長

昭和40年政治経済学部経済学科卒業 横浜市港南区日野在住 奥様 お母様 子供2人(共に男) 趣味は、ゴルフ月2回位 血液型O型 好きな言葉『継続は力なり』常に社員に言い続けています。どんな良い事でも、その時だけでは価値がないと思います。

Q 1. 現在のお仕事は?

マンションの分譲をしています。売買の仲介や賃貸の仲介等もやっています。そして、この他に、お風呂の水を永久的に変えなくていい商品(品名:バイオライズ)の製造販売をしています。これから人気商品になるという期待感を持って進めています。この商品は、田町に本社、札幌、仙台、横浜に営業所を置き、そちらの実質の代表もやっています。両方の仕事を掛け持ちでやっていますので、寝る時間を半分にして、また、好きなゴルフは8月から5ヶ月間に2回しかしておりません。

この商品は、いつでも24時間コンスタントにお風呂に入る事(水温も一定温度に設定可能)が出来、大腸菌も0(人が入ってから5~10分経過すると0)になります。費用は、イニシャルコストは約70万円、取付けに約10万円、電気代はガスと同様寒い所で1日約250円、水は取り替え無くても良く、使った量だけ足せば良い。気泡も出ます。そして、勿論既存のお風呂に取り付けられます。ただ、マンションはスペースが限られている為、難点があります。販売協力業者も色々な業種の方々にお願いしています。この建設不動産部会の鈴木事務局長にもご利用頂いています。建設不動産部会会員の皆様には、特別割引価格を考えていますので、是非御一報下さい。

Q 2. 大学時代は、何をされましたか?

黒岩先輩のもと、スキーパークの一般部同好会的感じの部門に入っていました。4年間全てスキーフィールドでした。かなりしごかれました。オフはいつもマラソンで、11月から立山、5月の月山で打ち上げでした。会社に入って、スキーパークの責任者として10年間毎年50~100名位連れて行きました。今でも初心者の方々は、教えられます。

Q 3. 部会についてひとこと?

役員の方々の御苦労には頭が下がります。会報を作られたり、例会を開催されたり大変かと思います。お手伝いしたい気持はございますが、なかなか出来ませんが、何とか時間をさいて出席をしたいと思っています。やって頂きたい事は、講習会や懇親会でもっと突っ込んだ情報交換を

活発にやった方が、仕事のチャンスは広がるのではないかと思います。もっと情報を隣合った地域等に流れば成約にも繋がると思います。

Q 4. 業界についてひとこと？

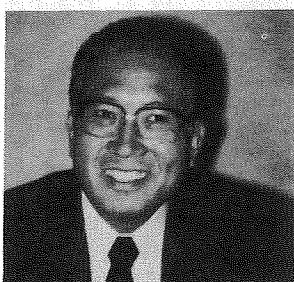
厳しさと言うのは、値上げによる買え控え減少による物件がこの地域は少なくなっています。

マンション分譲やマンション用地、建て売りも非常に少なくなっています。仲介物件も非常に不足しています。そういう情報を集めるのに一苦労しています。物件があれば販売の方は、順調に推移しているのでそう苦労は要らない。いかに、新しい仕入れ情報を集めるかがポイントだと思います。

Q 5. 現在までのサクセストーリーは？

それを目指していま奮闘中です。明確な目標の設定をする必要があります。任せられる組織体制づくりを一つの目標にしています。卒業後、東海興業に入社、そこで10年間人事部から総務、経理、開発、現場事務管理等色々やった事が今役立っています。特に役立ったのは、現場です。建築現場に興味を持ったので素人ながらマンションの企画、分譲をやってやろうではないかと言う事で、10年目にして飛び出したわけです。仲介は、付隨的に何年かしてから始めました。良い時と悪い時の繰り返しでした。二つの会社を掛け持ちしたら、肉体的(4ヶ月間休みなし)にも精神的にも運営面でも厳しい毎日です。気分転換は、ゴルフをしたり、ちょっと合間を見つけて、3年前に会社の保養所にした南箱根に家族で1泊位出掛けたりしています。

現在は、年商今年で20億円、社員20名で昭和49年に独立して免許番号が6になりました。健康管理は、中2から12~13年マラソンを1日5~6キロしていたので健康には自信があります。そして、現在は、睡眠時間をコントロールして、食事にもバランスをとる様気を使っています。特に朝は、がっちりいつも食事をしています。高校時代は、夜間部でしたので、昼間は仕事、5時40分~8時40分迄勉強、9時過ぎにマラソンし、帰宅は11時という生活をしていましたので、健康に自信があります。まさに『継続は力なり』に繋がっていると思います。



鹿島建設㈱横浜支店 機材部次長 兼 売却課長

武松 孝佳

昭和38年3月商学部商学科卒業 平塚市在住 6人家族 奥様
お母様 子供3人 趣味は水泳(週2回大磯ロングビーチで泳ぐ)
ゴルフ 血液型A型 好きな言葉『常に前進、闘魂』

Q 1. 現在のお仕事は？

資材の購賣をやっています。常にどういうものでも、色々のルートであっても、公平で会社の利益を第一優先にしながら、

他の面も考えなくてはならないし…………。

Q 2. 大学時代は、何をされてましたか？

ワングル一本でした。また、野球場に行って声を出す事が好きでした。一人でも行きました。

当時は「明治の武松」か「武松の明治」かと言われました。何かに没頭する事もないし、声を出す場もないし、野球場やラグビー場にも行きました。昨年1月2日ラグビーの決勝にも行きました。

Q 3. 部会についてひとこと？

よくわからないが、お互いの情報交換と言っても、建設業界というのは、一つの壁がありますので徹底した情報交換が出来ないと思うし、運営の難しさがあると思います。従いまして、腹を割って仕事の悩み等の情報交換が出来る様になれば良いのではないかと思います。名簿に名前がのっていますので、昭和会の何人かの人が、訪問された事がありましたが、会社の業者間の会等のしがらみもありまして、すぐに仕事というわけにはいかないのが残念です。

Q 4. 業界についてひとこと？

難しいですが、業界の中で、色々と日米摩擦等がありますと、いつも土建業界だけが表の槍玉にあげられるのは、日頃のPR不足だと思います。大衆消費材の販売と異なり、密接な所で仕事をしていますが、何かあると業界と一般とが掛け離れた存在に見られています。ですから、もっともっとPRをして良いのではないかと思います。また、人手不足と言われていますが、もっと若い人達が魅力ある仕事、つまり作っている物への理解や物を作る喜びを理解して欲しい。そして、協力業者が従来と異なり、一国一城の主ではなく、お互い提携し、情報交換をして複利厚生等の充実をはかり、人材確保をして欲しい。海外就業者の問題は、あまり言えないが、労災の補償が出来ていないのが現状で、どういう状態でもその場限りの使い方は出来ないと思います。

Q 5. 現在までのサクセストーリーは？

会社の入社のきっかけは、物を作る所で生き甲斐を見つけようという事でした。そして、機械部（倉庫のエレベーター等を作る部署）に配属されてから、機械管理や機械施工等の大型機械を使うようになりました。そして、横浜支店に移り、総務、現場で土木事務の統括を10年しました。その時に、色々な工事で、地元対策や漁業組合交渉等もしました。その後、管理部に5年、現場経理等をしました。大きな工事は、横浜ベイブリッジや逗子と横須賀トンネル等を担当しました。ピンチになった時は、一つの仕事を完結しなければならないと思います。過去自分では出来ないと思う事が何回もあったが、何処に行ってもいいという気持ちになって、家に帰らず現場で1ヶ月間寝泊まりしました。そして、何か思いつきがでれば現場で纏めるようにしました。やはり、自分の中に、「常に前進」「闘魂」という気持ちがありました。また、感動した事は、9月末の台風の折、横浜トンネルの貫通式（両方から掘ったトンネルの最後の部分を取り除く式）で色々な事があって、司会をして、秒読みで10～0になり、ボタンが押されて、どんどん風が抜けた時の事は今でも印象に残っています。仕事の中では、事務屋ですが、その日その瞬間自分が主役だと思ってやっています。土建に入って良かったという繰り返しが続いている。仕事で逃げたいと思っても、人のせいにする訳にはいかないと思います。

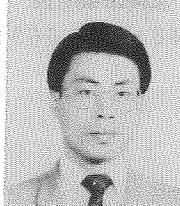


新会員ご紹介コーナー



宮本 榮次(47・法) 富士急行㈱
不動産営業部 営業開発課長
☎ 03-376-1111

このたび入会させていただくことになりました。よろしくお願い致します。



橋本 武司(48・農) 住宅流通㈱
☎ 03-367-7780

よろしく!!



増田雄太郎(43・政経) 日立化成工業㈱
環境施設営業所 部長代理
☎ 03-346-3111



益子 孝(35・建築)
東急建設㈱東関東支社 理事
☎ 0472-47-0900



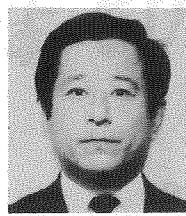
伊藤 稔(55・政経)
㈱リクルートコスモス 赤坂支社
資産運用部販売促進課長
☎ 03-584-2811



刈谷 正明(45・商)
㈱孔共 代表取締役
☎ 03-780-0045



井上 泰一(39・商)
㈱西原衛生工業所 経理部長
☎ 03-452-7441



佐々木英夫(42・政経)
㈱ニュー・トーキョー本店9階 店長
☎ 03-572-0007

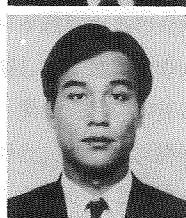
大小にかかわらずご宴会、ご会合にご利用下さい。



竹下 英志(45・政経)
㈱シルクロード 代表取締役
☎ 03-299-1875



森 康(28・)
ダイダン㈱東京本社
☎ 03-261-8231

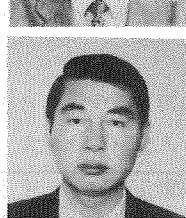


小山 充治(60・商)
エース商券㈱東京支店
☎ 03-666-2570

投資情報、その他何でも入手したい情報があれば、いつでもお申し付け下さい。



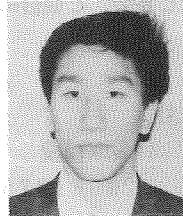
橋本 重一(38・工)
橋本建築設計事務所
☎ 0292-24-0821



佐々木睦男(44・政経)
㈱倉本道路 営業課長
☎ 03-989-6736



山田 佳里(32・工)
日産建設㈱ 理事
☎ 03-402-8162

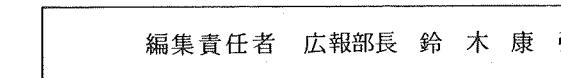
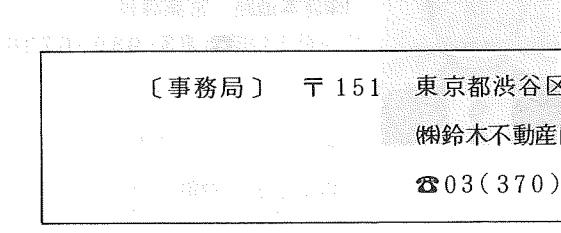
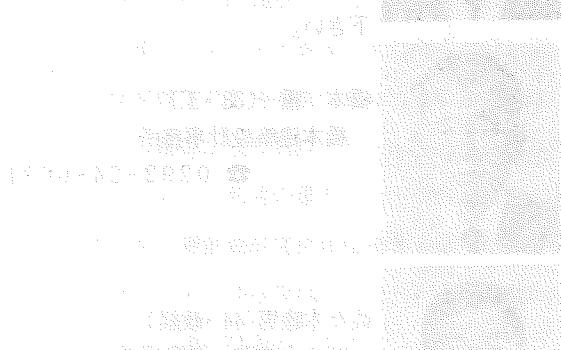


野崎 公博(63・政経)
(有)紀栄商事 取締役

入会につきまして、大変恐縮に存じますが、今後共ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



松村 功(38・政経)
東京日立エレベータ販売㈱
北関東支店北関東営業部 所長
☎ 048-643-5721



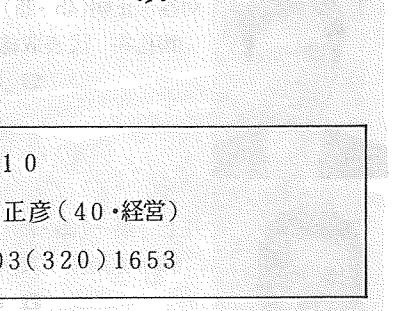
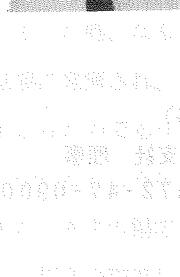
矢野 晉幸(43・工)
旭化成ホームズ㈱ 部長代理
☎ 03-344-7181



遠藤 清公(28・商)
(株)セブンホーム 上尾営業所長
☎ 048-775-6631



木村 一郎(31・法)
川崎市建築局参事 兼 庶務課長
☎ 044-200-2939



〔事務局〕 〒151 東京都渋谷区代々木2-10-10

㈱鈴木不動産内 事務局長 鈴木正彦(40・経営)

☎ 03(370)8458 FAX 03(320)1653

編集責任者 広報部長 鈴木康弘(39・商) 柳沢克行(53・政経)